

選択肢のない福祉に

重度訪問介護 × シェアハウス

地域で暮らす新しい生活モデル



株式会社ヒューマンインフラ



日本の障害者 約 964 万人

そのうち重度障害 約100万人

多くの人
暮らしの選択肢を持っていません。

現実

しかし現実には、



施設

入院

実家

この3つに
依存しています





望んでいるのは 普通の暮らし

- 自分の部屋
- 自分の生活



制度

日本には
重度訪問介護制度があります

最大

24時間支援可能

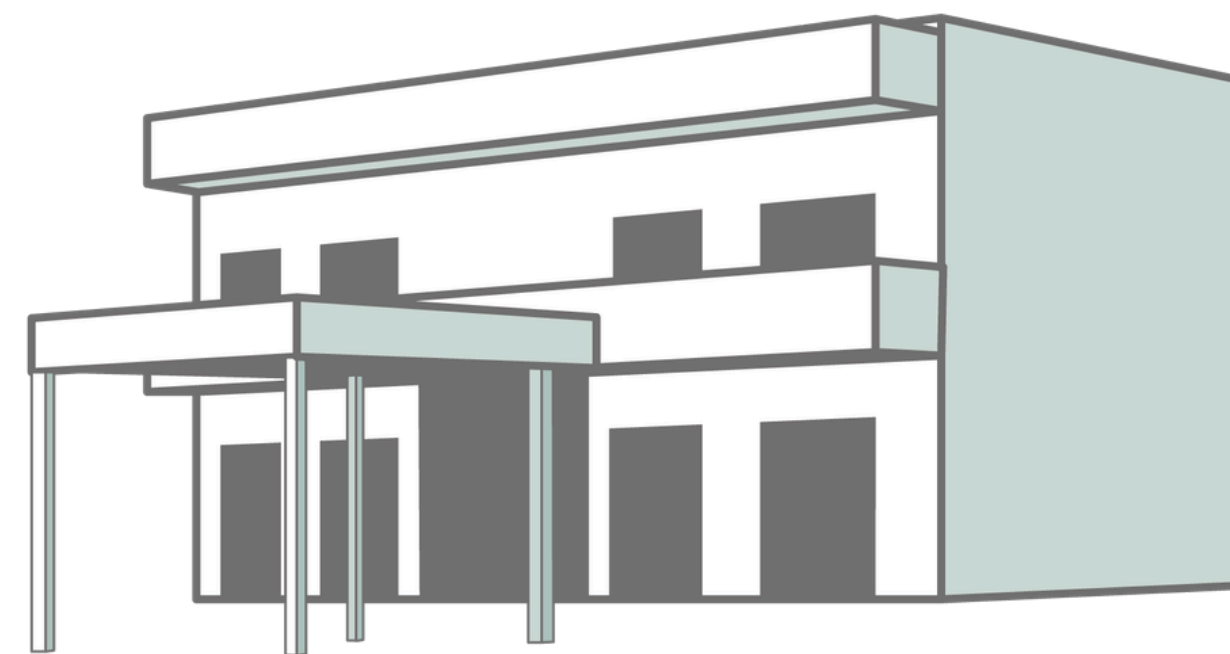
地域生活を支える制度です



制度が広がらない理由

制度があっても

- 人材不足
- 支援の難しさ
- 事業リスク



福山市の状況

福山市人口 約46万人

障害者数 約3万人

重度障害者 約3000~4000人



重度訪問介護対象

重度訪問介護対象 300～800人

しかし

実際の利用約 100人

地域生活の受け皿が **不足** しています



個人住宅での支援は

支援者が

- 孤立しやすい
- 相談相手がいない
- 代替要員がいない
- 緊急対応が難しい



支援の難しさ

重度訪問介護は**高度な支援**

必要な力

- 状態理解
- 信頼関係
- 判断力



社員教育

支援の質を高めるため

オンライン会議・ケース検討を

行い課題の共有と支援の
振り返りを行っています。



支援を一人で抱えず、チームで
考える環境を大切にしています。

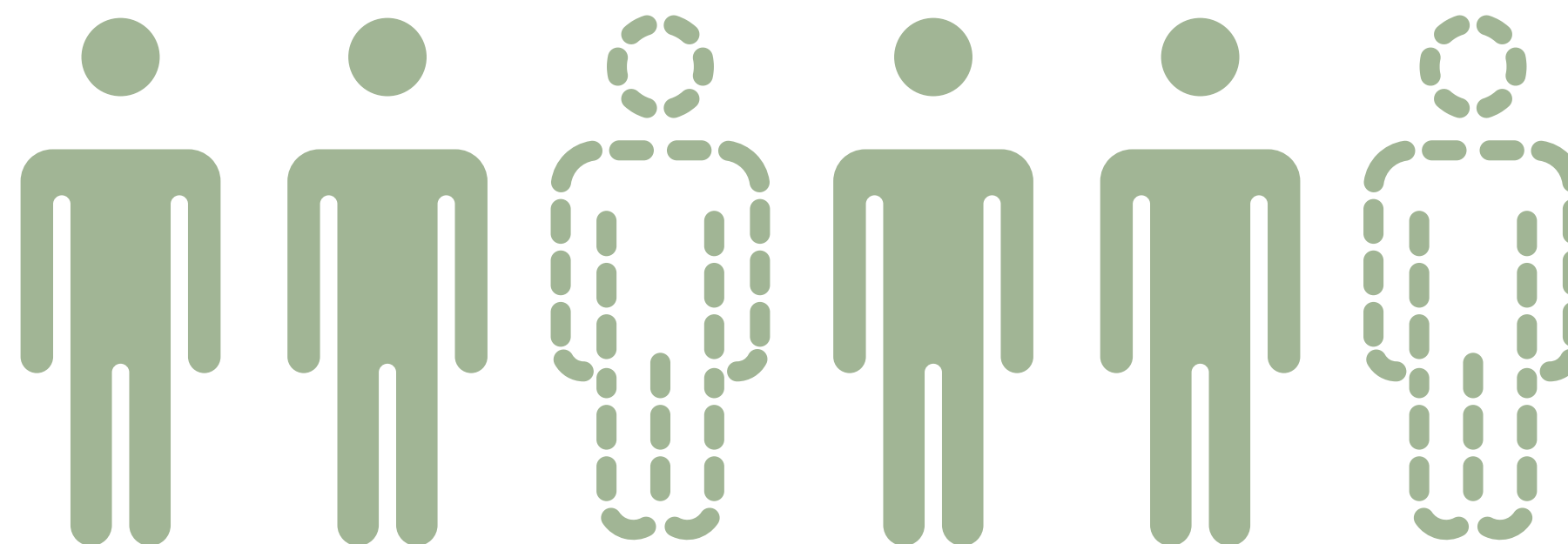
人材問題



2040年

介護人材

約69万人不足



私たちの視点



この事業の中心は利用者だけではなく
支援者の環境です。

支援者が安心して働ける環境が
良い支援を生みます。



解決モデル

重度訪問介護

×

シェアハウス

住まいをまとめることで
支援者同士が
連携できる環境を作ります。



シェアハウスの強み



支援者
連携

緊急対応

交代支援

代替要員

支援の安全性が高まります。



グループホームとの違い



グループホーム

生活

集団生活

自由

施設ルール

支援

限定

重度訪問

個室生活

本人の生活

24時間



暮らし

シェアハウスでは、**外食・夜のドライブ**
・**たこ焼きパーティー**など日常の中に
自然な楽しみがあります。

「ここで暮らしたい」
そう思える場所を作っています。



生活イメージ

シェアハウスでの生活

朝 起床・身支度

日中 外出・活動・通院

夕方 食事・入浴

夜 自分の部屋で休息

24時間
個別支援

社会モデル

これまでは

施設

病院

実家

この3つが主な選択肢でした

そこに

地域で暮らすという
選択肢をつくる



最後に



選択肢のない福祉に
新しい選択肢を。

重度訪問介護 × シェアハウス

地域で暮らす
新しい生活モデル

 株式会社ヒューマンインフラ